

2025.12.13 文科省事業報告会実践報告 Q&A

1) 情報活用能力の育成について、難しさを感じています。特に情報リテラシーにおける出典や引用について、指導しきれていないと感じます。それぞれの学校では、どのように指導されていますか？匿名出席者 02:50 PM

A:竹早小では、司書からはふだんから読書ノートを書くことで、書名や著者名を意識してもらう機会としています。また3、4、5年生の科学読み物を読むテーマ読書で情報カードを書くこと、6年生でおすすめの本カードを書くときに、奥付の見方を説明しています。が、その時はできても、定着はなかなか難しいと感じています。（竹早小学校 司書宮崎）

A. 全部の教科が違う課題で同じ要求をすること。出典を明記すること。を条件にすればなんとかやり始めます。（世田谷中 阿部）

A. 1年時図書館オリエンテーションにあわせて行う単元から書誌情報について指導している。その後1年1学期の間の取り組みで、あらためて出典について触れ得るようにしています。今年度は夏休み前に著作権をテーマにした講演を原口先生にお願いして強化を図りました。引用などについても授業での取り組みと連動させながら、3年間継続的に確認をしていっています。まず書籍の話を

行い、それをインターネット上の出典の場合に転用させられるようにしています。（1年時に実施）他教科の取り組みでもどうか話題にしたり、ちょっと触れたり。成果物の掲示などをみてそれを話の素材にしたり。繰り返し、いろいろな場面で、粘り強く、が重要なのだと思います。またこれについては子供たちに指導しました！（だから意識できるはず！だめなら子供たちには指摘し、こちらのにも教えてください）ということを他教科の先生方にも明らかにすることも大切だと思ってい

ます。（世田谷中 渡邊）

2) 竹早小の司書の方の報告で、3年生の科学よみもののクイズを発表されていた学校図書館の行事とはどういうものですか？ご紹介いただけますでしょうか？匿名出席者 03:04 PM

A:行事といっても、特別な時間を設けるものではなく、読書週間（学校で設定しているものではなく全国読書週間）の期間、いつでもチャレンジできる図書館クイズ（今年はYomokka！の本を使用したもの）を用意して、参加してもらい、全問正解者にはプラスワン貸出券をプレゼントするというものです。メディアの時間にも紹介して参加してもらっています。（竹早小学校 司書宮崎）

3) 中学校の美術の作品作りに図書館と国語科が関わってコンセプトに関わる部分を生徒の中に耕していくという方法について、生徒はワクワクしながら、作品作りに入っていくと思い、すばらしい実線だと思います。美術が年間35時間ということですが、この授業は国語+美術の授業時間でトータル何時間（何コマ）でできたのでしょうか。

A. 美術科の時数

【言葉の獸】

- (1)コンセプトの導入・言葉の資料集め
- (2)骨格資料集め・アイディアまとめ
- (3)(4)芯材づくり
- (5)(6)(7)石粉粘土での整形
- (8)(9)(10)(11)着彩
- (12)キャプションづくり

【かれんな花彫刻】

- (1)コンセプトの導入・花の資料集め

- (2)アルミホイルでの造形試作
- (3)作品アイディアまとめ(+追加資料集め)
- (4)(5)芯材制作
- (6)(7)(8)石粉粘土での整形
- (9)(10)(11)着彩
- (12)キャプションづくり(この時間で仕上がらない分を国語科でも扱ってもらいました)

【びいしき拾い】

- (1)課題の説明・「真善美」の捉え方の講義

(授業時間外)以降、拾う活動は自然宿泊教室の時間内。レポート作成は宿題としました。

いずれも、学年ごとの制作習熟度などに応じて前後しますが、上記が1番ベーシックな時間の割り当てです。

授業時間内で完成しない生徒については、昼休みや放課後などに制作の許可を出す期間も設けています。(世田谷中 岩本)

国語は

花の時は2時間

- ①名前とは何かを考える
- ②名付けとは何かを考える
- ③自分の作品を撮影する/じっくり見る
- ④花言葉の図書やインターネット検索をする
- ⑤名付ける/物語付与する
- ⑥ワークシートを提出

石の時は1時間

花でやっているので①②はカットして宝石言葉の紹介をして

- ③石をじっくり見る
- ④図書とネットで検索
- ⑤名付ける/物語を付与する
- ⑥ロイロノートを提出

です。（世田谷中 阿部4）

私も学校図書館には読書の習慣や文化を生徒に伝える役割があると思います。授業の中で読書して対話することを取り入れていきたいと考えています。1コマ短いですが、授業の中で読書会やディスカッションをするには、どんなことに気をつけたり、工夫したりしたらよいとお考えですか。

A. まず場を設定すること（空間設計も）。子どもたちの興味関心を喚起する素材を集めること（数も）。また、「評価」の対象となる事柄がどのようなことなのかを共有すること。（例えば活動のまとめとしてPOPづくりを行うときに、POPそのものの出来栄えではなく、その過程にあるディスカッション部分を見ることなど）というあたりでしょうか？（世田谷中 渡邊）

5) ジャパンナレッジ school を導入していますが、新書は読めるのですが、「日本古典文学全集」はなかなか生徒は使いこなせません。長谷川先生のお話にまったく同感です。私たちが、とてもいい資料だよ、使おうよと言っても、生徒にその重要さ、有効さが伝わらない場面が結構あります。使いにくいせいもありますが、そのほかの統計資料その他の有効性、必要性をどのように伝えたらよいのでしょうか。

A. 平易なもの図書から全集まであらゆる関連書籍を準備して、ジャパナレには全集が入っているということを知らせる。課題を出す。調べている過程で、必要だと判断すると勝手に全集を見る生徒がいる。が現状です。使ってもらいたい使わせたい。という気持ちを一旦脇に置いて、どれを使うかを生徒に選ばせることも実は必要なことだと思います。これじゃ足りない。これでもない。と試行錯誤して最終的に全集に辿り着き、なんだ手元にあるじゃん。とわかると、次の課題で

は全集から手をつける子も出でてきます。(世田谷中 阿部)

A. その資料を使うことの有用性がある場面を授業のなかで経験できるかだと思います。そういう意味で授業との連携が重要になる話題であると感じました。そういうものがあることを知ることはもちろん、それを使うことで（自分が）どのようなことができるかがイメージできないと言われたとしても使ってみるところまではなかなか手が出ないし、初期段階はそれでもいいと思って導入しています。その資料がデジタルではなく、書籍の状態だったとしてもなかなか「あるから使う」ということにはならないものも多いと思います。まず使える部分から使ってみることが大切だと考えます。学習者の必要感との結びつきが重要ですし、それを感じたときに「そこにある」状態をつくりていることの意義も大きいのではないでしょうか。また、ログイン等確認をする時間は思い切って「ジャパナレそのものにいろいろ触れてみる／試してみる」という時間を設けてみました。そこで触れながら「なにができるのか」子供たち自身で考える時間をつくってみることは、子どもたち自身で選択肢を広げることには一つ有効であったと感じます。